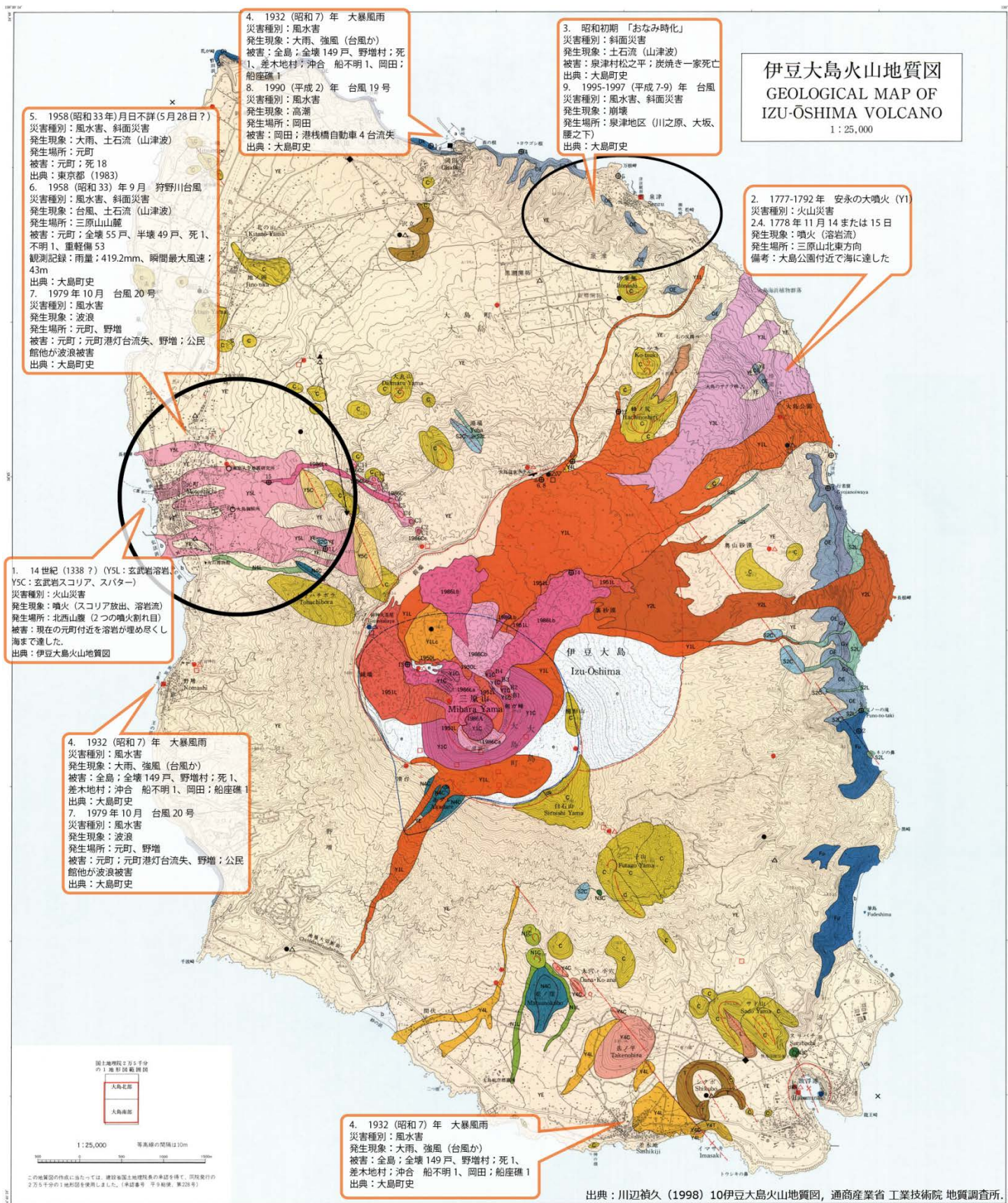


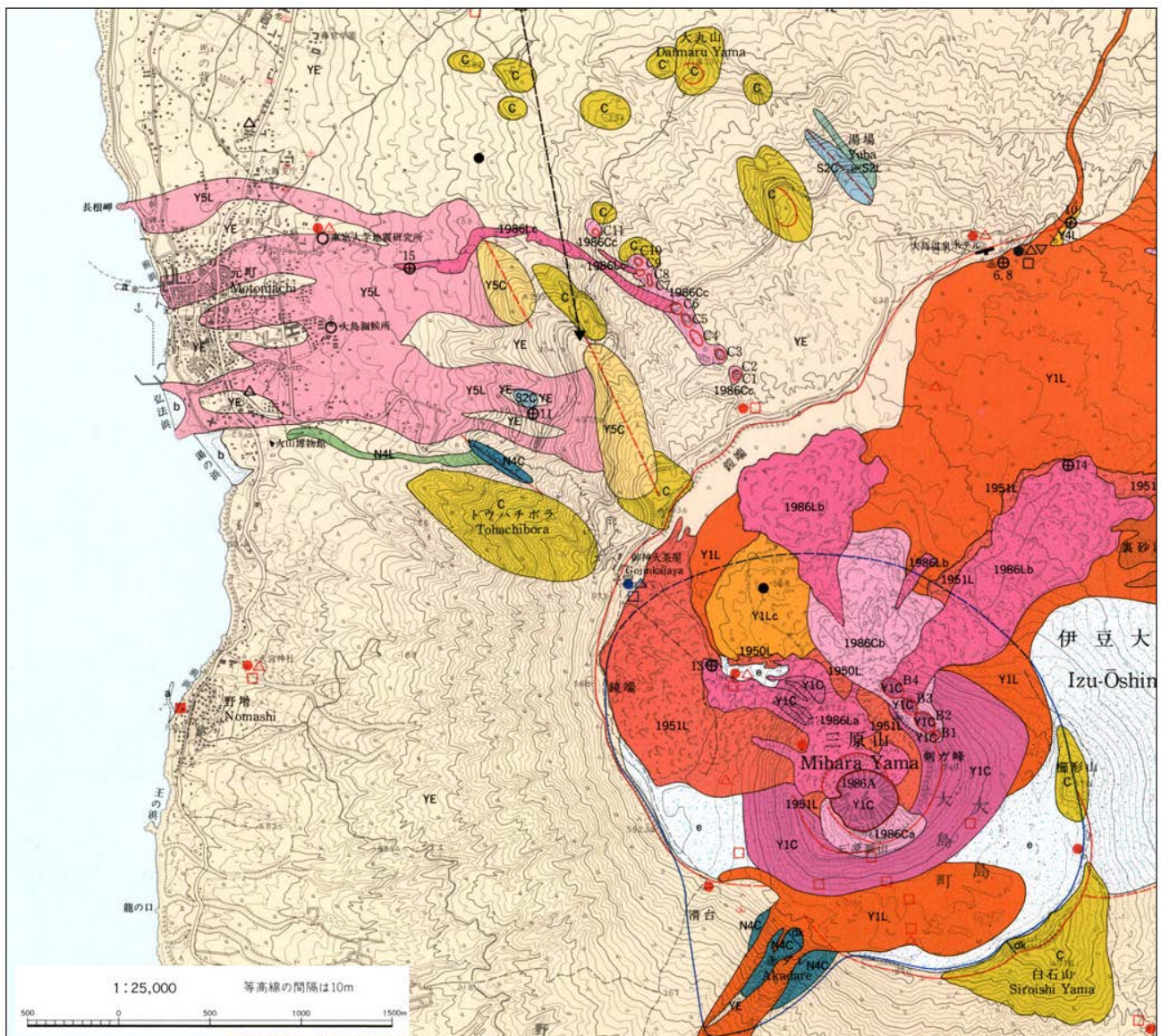
伊豆大島 過去の災害履歴



伊豆大島火山地質図: (独) 産業技術総合研究所 日本の活火山より引用 (https://gbank.gsj.jp/volcano/Act_Vol/index.html)

1. 14 世紀 (1338?) Y5 噴火 (Y5L : 玄武岩溶岩、Y5C : 玄武岩スコリア、スパター)

- ・ 災害種別 : 火山災害
- ・ 発生現象 : 噴火 (スコリア放出、溶岩流)
- ・ 発生場所 : 北西山腹 (2 つの噴火割れ目)
- ・ 被害 : 現在の元町付近を溶岩が埋め尽くし海まで達した。
- ・ 出典 : 伊豆大島火山地質図
- ・ 備考 :
 - 山頂部からのスコリア、細粒火山灰の噴出が発生。
 - 1338 年の噴火記載 (竺仙録) から 1338 年噴火記録に対比
 - 元町地区を広く 覆う地質が Y5L 溶岩、林道の上部を覆う地質が Y5C スコリア



川辺禎久 (1998) : 10伊豆大島火山地質図, 通商産業省 工業技術院 地質調査所.

伊豆大島火山地質図 : (独) 産業技術総合研究所 日本の活火山より引用 (https://gbank.gsi.jp/volcano/Act_Vol/index.html)

2. 1777-1792年 安永の大噴火 (Y1)

- ・ 災害種別：火山災害
- ・ 出典：伊豆大島火山地質図

2.1. 1777年8月31日

- ・ 発生現象：噴火（溶岩噴泉、スコリア噴出）
- ・ 発生場所：三原山山頂火口

2.2. 1778年4月19日

- ・ 発生現象：噴火（溶岩流）
- ・ 発生場所：三原山北西麓
- ・ 備考：北東に流下

2.3. 1778年11月6日

- ・ 発生現象：地震、噴火（溶岩流）
- ・ 発生場所：三原山南西側
- ・ 備考：カルデラ南西壁を越流、都道付近まで達する

2.4. 1778年11月14日または15日

- ・ 発生現象：噴火（溶岩流）
- ・ 発生場所：三原山北東方向
- ・ 備考：大島公園付近で海に達した

2.5. 1783-86年、1789年

- ・ 発生現象：降灰
- ・ 備考：降灰 1.2-1.5m、

→伊豆大島の噴火史は伊豆大島火山地質図（通商産業省 工業技術院 地質調査所 1988）に詳しい。

<https://gbank.gsj.jp/volcano-AV/volcmap/10/text/exp10-1.html>

3. 昭和初期 おなみ時化 ← 下記の1933年災害と思われる

- ・ 災害種別：斜面災害
- ・ 発生現象：土石流（山津波）
- ・ 被害：泉津村松之平；炭焼き一家流失、死
- ・ 出典：大島町史

4. 1932（昭和7）年 大暴風雨

- ・ 災害種別：風水害
- ・ 発生現象：大雨、強風（台風か）
- ・ 被害：全島；全壊 149戸、野増村；死 1、差木地村；沖合 船不明 1、岡田；船座礁 1
- ・ 出典：大島町史

5. 1958（昭和33年）月日不詳（5月28日？）

- ・ 災害種別：風水害、斜面災害
- ・ 発生現象：大雨、土石流（山津波）
- ・ 発生場所：元町
- ・ 被害：元町；死18
- ・ 出典：東京都（1983）

6. 1958（昭和33）年9月 狩野川台風

- ・ 災害種別：風水害、斜面災害
- ・ 発生現象：台風、土石流（山津波）
- ・ 発生場所：三原山麓
- ・ 被害：元町；全壊55戸、半壊49戸、死1、不明1、重軽傷53
- ・ 観測記録：雨量；419.2mm、瞬間最大風速；43m
- ・ 出典：大島町史

7. 1979年10月 台風20号

- ・ 災害種別：風水害
- ・ 発生現象：高潮
- ・ 発生場所：元町、野増
- ・ 被害：元町；元町港灯台流失、野増；公民館他が波浪被害
- ・ 出典：大島町史

8. 1990（平成2）年 台風19号

- ・ 災害種別：風水害
- ・ 発生現象：高潮
- ・ 発生場所：岡田
- ・ 被害：岡田；港棧橋自動車4台流失
- ・ 出典：大島町史

9. 1995-1997（平成7-9）年 台風

- ・ 災害種別：風水害、斜面災害
- ・ 発生現象：崩壊
- ・ 発生場所：泉津地区（川之原、大坂、腰之下）
- ・ 出典：大島町史

メモ

- ・ 伊豆大島は、住宅の南西側や北東側に石垣を築き強風に備えていた（大島町史）
- ・ 薪炭の生産が盛んな時代は、大規模な伐採により斜面災害が頻発していた（大島町史）

伊豆大島の地名変遷（新版 角川日本地名大辞典より引用）

●大島町 おおしままち〈東京都 大島町〉

〔近代〕 昭和 30 年～現在の東京都の自治体名。

元村 {もとむら}・岡田村・差木地 {さしきじ} 村・波浮港 {はぶみなど} 村・泉津 {せんづ} 村・野増 {のまし} 村が合併して成立。元村は元町となり，ほかは合併各村名を継承した 1 町 5 大字を編成。町名は古代以来の島名による。

◎元 もと〈東京都 大島町〉

〔近代〕元村 明治初期～明治 41 年の村名。江戸期の新島 {にいじま} 村が改称して成立。明治 2 年相模 {さがみ} 府知事所管となり，同 3 年葦山 {いらやま} 県，同 4 年足柄 {あしがら} 県，同 9 年 4 月静岡県を経て，同 11 年からは東京府に所属。明治 41 年島嶼町村制施行により自治体の元村となる。

〔近代〕元村 明治 41 年～昭和 30 年の自治体名。はじめ東京府，昭和 18 年からは東京都に所属。大字は編成せず。昭和 30 年大島町元町となる。

〔近代〕元町 昭和 30 年～現在の大島町の町名。昭和 42 年一部が元町 1～4 丁目となる。

〔現代〕元町 昭和 42 年～現在の大島町の町名。1～4 丁目がある。

○新島村 にいじまむら〈東京都 大島町〉

〔近世〕 江戸期～明治初期の村名。伊豆国のうち。幕府領。大島の西海岸に立地。

「南方海島志」によると，寛文年間，伊奈兵右衛門が伊豆代官のとき，当村に手代を置き庁を定め，利島 {としま}・新島・神津 {こうづ} 島・三宅 {みやけ} 島・御蔵 {みくら} 島の支配を行わせたという。岡田村とともに本土との交通の要衝で，江戸・伊豆・相模 {さがみ} からの船がしきりに出入りしていた。船着場のすぐ上に為朝館跡と呼ばれている高台があり，平安末期，保元の乱で敗れた源為朝が大島に流され，この地に居を構えていたという伝説が残る。

安永 3 年 3 月，伊豆代官江川太郎左衛門が作成した「伊豆国附嶋々様子大概書」によると，村の人口は 1,323 で，大島のほかの 4 か村（岡田・差木地 {さしきじ}・泉津 {せんづ}・野増 {のまし}）の合計人口を上まわっている。寺院は伊豆国下田法善寺末浄土宗潮音寺・下田本光寺末蓮宗海中寺と網代 {あじろ} 善明寺末禅宗金光寺の 3 か寺がある。明治初期元村 {もとむら} と改称。

◎岡田 おかだ〈東京都 大島町〉

大島の最北端の海岸に面して位置する。江戸期から新島 {にいじま} 村とともに本土との交通上の要衝であり，現在でも西風の季節には新島港を使用せず岡田港を使用する。

〔近世〕岡田村 江戸期～明治 41 年の村名。伊豆国のうち。幕府領。安永 3 年の「伊豆国附嶋々様子大概書」によれば，人口は 416 で大島諸村のうち新島村に次いで多い。寺院に新島村金光寺末の福寿庵がある。元禄 16 年 11 月 22 日，岡田村一帯は津波に襲われ，船 18 艘・56 人・58 戸が海中に引かれた（南

方海島志)。明治2年相模 {さがみ} 府知事所管となり，同3年葦山 {こらやま} 県，同4年足柄 {あしがら} 県，同9年4月静岡県を経て，同11年からは東京府に所属。明治41年島嶼町村制施行により自治体の岡田村となる。

〔近代〕岡田村 明治41年～昭和30年の自治体名。はじめ東京府，昭和18年からは東京都に所属。大字は編成せず。昭和30年大島町岡田となる。

〔近代〕岡田 昭和30年～現在の大島町の大字名。

◎差木地 さしきじ〈東京都 大島町〉

大島の南海岸に位置する。

〔近世〕差木地村 江戸期～明治41年の村名。伊豆国のうち。幕府領。
安永3年の「伊豆国嶋々様子大概書」によれば，人口164。寺院に新島 {にいじま} 村金光寺末の東福寺があるが無住。大島諸村のうち新島・岡田両村が本土との交通上重要な港を持って，海に依存する度合いが大きいのに比較して，当村は山方と呼ばれ主として山地産業に依存していた。元禄16年11月22日，大地震による津波で波浮 {はぶ} 神社御手洗池に海水が流れ込み，池は海につながった。のち寛政12年秋広平六によって波浮港が完成，その後，波浮港は波浮港村として独立。明治2年相模 {さがみ} 府知事所管となり，同3年葦山 {こらやま} 県，同4年足柄 {あしがら} 県，同9年4月静岡県を経て，同11年からは東京府に所属。明治41年島嶼町村制施行により自治体の差木地村となる。

〔近代〕差木地村 明治41年～昭和30年の自治体名。はじめ東京府，昭和18年からは東京都に所属。大字は編成せず。昭和30年大島町差木地となる。

〔近代〕差木地 昭和30年～現在の大島町の大字名。

◎波浮港 はぶみなと〈東京都 大島町〉

大島東南端に位置する。

〔近世〕波浮港村 江戸期～明治41年の村名。伊豆国のうち。幕府領。
寛政12年差木地 {さしきじ} 村のうちに波浮港完成後，差木地村の一部が独立。幕府は寛政年間波浮港を築港した秋広平六に畑7町7反・山林若干を与えた。当村には名主が置かれず，港一式引受人が置かれていた（伊豆七島志）。「三宅記」に「波分ノ大后」と見える羽部大后大明神をまつる波布比売命神社があった（増訂豆州志稿）。波浮港は，開港後，松前 {まつまえ} 御用船をはじめ近隣の漁船の風待ち港となり，漁港として栄えた。明治2年相模 {さがみ} 府知事所管となり，同3年葦山 {こらやま} 県，同4年足柄 {あしがら} 県，同9年4月静岡県を経て，同11年からは東京府に所属。明治41年島嶼町村制施行により自治体の波浮港村となる。

〔近代〕波浮港村 明治 41 年～昭和 30 年の自治体名。はじめ東京府，昭和 18 年からは東京都に所属。大字は編成せず。昭和 30 年大島町波浮港となる。

〔近代〕波浮港 昭和 30 年～現在の大島町の大字名。

◎泉津 せんづ〈東京都 大島町〉

大島の東海岸に位置する。

〔近世〕泉津村 江戸期～明治 41 年の村名。伊豆国のうち。幕府領。安永 3 年の「伊豆国附嶋々様子大概書」によれば，人口は 99，大島 5 か村中最も小さな村。寺院に新島 {にいじま} 村金光寺末の法泉寺があった。山方と呼ばれ，山地産業に依存。明治 2 年相模 {さがみ} 府知事所管となり，同 3 年葦山 {にらやま} 県，同 4 年足柄 {あしがら} 県，同 9 年 4 月静岡県を経て，同 11 年からは東京府に所属。明治 41 年島嶼町村制施行により自治体の泉津村となる。

〔近代〕泉津村 明治 41 年～昭和 30 年の自治体名。はじめ東京府，昭和 18 年からは東京都に所属。大字は編成せず。昭和 30 年大島町泉津となる。

〔近代〕泉津 昭和 30 年～現在の大島町の大字名。

◎野増 のまし〈東京都 大島町〉

大島西海岸に位置する。

〔近世〕野増村 江戸期～明治 41 年の村名。伊豆国のうち。幕府領。安永 3 年 3 月の「伊豆国附嶋々様子大概書」によれば人口 227 で，大島 5 か村のうち新島 {にいじま}・岡田両村に次いで 3 番目に位置し，山方村と呼ばれる残り 3 か村中最も大きい。「南方海島志」によると，寛政年間初期に三原山が噴火，激しい降灰のため 69 軒あった家々がわずか 10 数軒になったという。村内の慈眼寺は新島村金光寺末で無住。明治 2 年相模 {さがみ} 府知事所管となり，同 3 年葦山 {にらやま} 県，同 4 年足柄 {あしがら} 県，同 9 年 4 月静岡県を経て，同 11 年からは東京府に所属。明治 41 年島嶼町村制施行により自治体の野増村となる。

〔近代〕野増村 明治 41 年～昭和 30 年の自治体名。はじめ東京府昭和 18 年からは東京都に所属。大字は編成せず。明治期に鳥居龍蔵博士によって溶岩流下の赤い焼土層中に，竜ノ口遺跡が発見され，約 50 m にわたって遺物が発見されている。昭和 30 年大島町野増となる。

〔近代〕野増 昭和 30 年～現在の大島町の大字名。

<出典資料>

大島町（2000）：東京都大島町史 通史編，p761-766

角川日本地名大辞典編纂委員会（2011）：新版 角川日本地名大辞典 DVD - ROM

活火山データベース（2013）：<https://gbank.gsj.jp/volcano/>

川辺貞久（1998）：伊豆大島火山地質図

<https://gbank.gsj.jp/volcano-AV/volcmap/10/map/volcmap10-1.html>

立木猛治（1961）：伊豆大島志考

東京都（1983）：東京都の島しょ地域における災害に関する総合調査報告書

東京都（2013）：大島山地災害危険地区マップ ホームページ

<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/11osima/industry/image/kikenchiku1.pdf>